一般県道豊田笠師保停車場線改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

七尾市

塩津（しおつ）遺跡

2005

石川県教育委員会

㈶石川県埋蔵文化財センター

塩津遺跡

2005

石川県教育委員会

㈶石川県埋蔵文化財センター

例　　言

1　本書は塩津遺跡の発掘調査報告書である。

2　遺跡の所在地は七尾市中島町塩津地内である。

3　調査原因は一般県道豊田笠師保停車場線改良工事であり、同事業を所管する県土木部道路建設課が石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。

4　調査は㈶石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成14（2002）年度から平成16（2004）年度にかけて実施した。業務内容は現地調査・出土品整理・報告書刊行である。

5　調査に係る費用は県土木部道路建設課が負担した。

6　現地調査は平成14年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者は下記のとおりである。

期　間　平成14年７月１日～同年７月15日

面　積　250㎡

担当課　調査部調査第３課

担当者　端　　猛（主任主事）、谷内明央（主事）

7　出土品整理は平成16年度に実施し、企画部整理課が担当した。

8　報告書刊行は平成16年度に実施し、調査部調査第３課が担当した。執筆は谷内明央（調査部調査第２課主事）が行った。

9　調査には下記の機関の協力を得た。

県土木部道路建設課、中島町教育委員会（現七尾市教育委員会）

10　調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。

11　本書についての凡例は下記のとおりである。

⑴　方位は磁北である。

⑵　水平基準は海抜高であり、Ｔ.Ｐ.（東京湾平均海抜高）による。

⑶　出土遺物番号は挿図と写真で対応する。

⑷　製塩土器の破面はスクリーントーンで示した。

目　　次

第１章　調査に至る経緯と経過 …… 1
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　調査の経過 …… 1
第３節　出土品整理・報告書刊行 …… 1

第２章　遺跡の位置と環境 …… 3

第３章　調査の成果 …… 6
第１節　概　　要 …… 6
第２節　遺　　物 …… 6

第４章　まとめ …… 10

第１章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

塩津遺跡は、平成８年度から県営ほ場整備事業に伴って実施されていた県教育委員会文化財課（以下、文化財課）による試掘調査の際に発見された遺跡である。

旧中島町の沿岸地域をほぼ南北に貫く国道249号線から内陸の豊田方面へ抜ける生活道路である県道豊田笠師保停車場線は幅員が十分に確保されておらず車両の交差が容易ではない。その点を解消すべく県土木部道路建設課（以下、道路建設課）は同路線の改良工事を計画した。しかし工事箇所には塩津遺跡が含まれているため、工事によって遺跡が影響を受ける250㎡を対象に発掘調査を実施することになった。

道路建設課は文化財課に発掘調査を依頼し、文化財課は財団法人石川県埋蔵文化財センター（以下、埋文センター）に発掘調査を委託した。調査は調査部調査第３課が担当した。

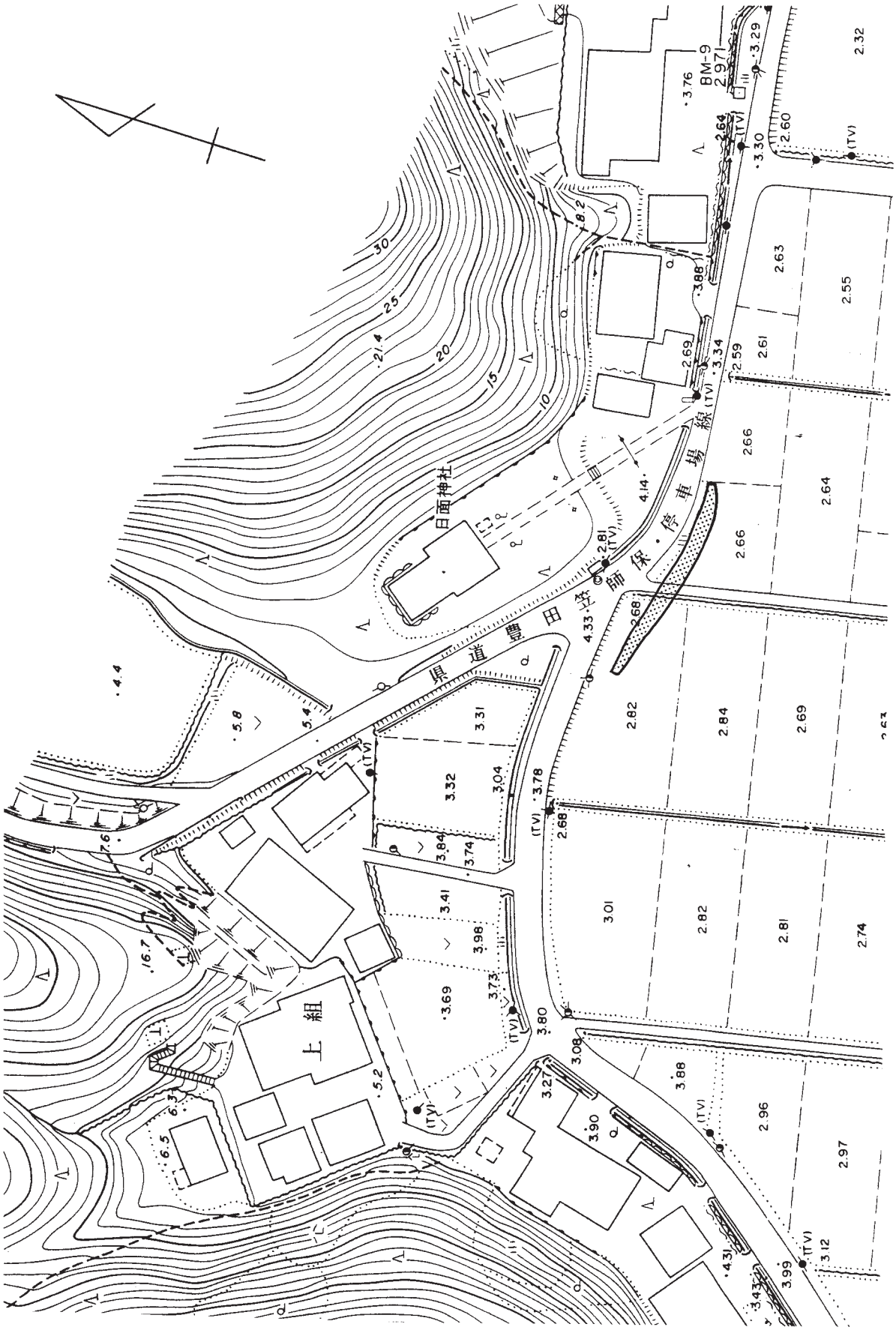
第２節　調査の経過

平成14年６月６日に七尾土木総合事務所（現中能登土木総合事務所。以下、七尾土木）・文化財課・埋文センターとの間で現地協議が行われ、調査範囲・ユニットハウス設置場所・駐車場等を確認した。６月14日にユニットハウスを建上げ、７月１日に表土除去・器材搬入を行った。７月２日から作業員が加わり、本格的に発掘調査が始まった。遺物包含層を掘削後、遺構検出を行ったが明確な遺構は確認できなかった。調査区中央を深く掘り下げ、下部の確認を行ったが遺構・遺物は確認できなかった。５日に写真撮影を行い、８日には実測作業が完了した。15日に七尾土木に現場を引き渡し、現地における作業は完了した。

第３節　出土品整理・報告書刊行

平成16年度、文化財課は出土品整理と報告書刊行を埋文センターに委託した。出土品整理は企画部整理課が担当した。整理内容は遺物の記名・分類・接合・実測・トレースと遺構図トレースである。

報告書刊行は調査部調査第３課が担当した。



第１図　調査区位置図（Ｓ＝1/1,000）

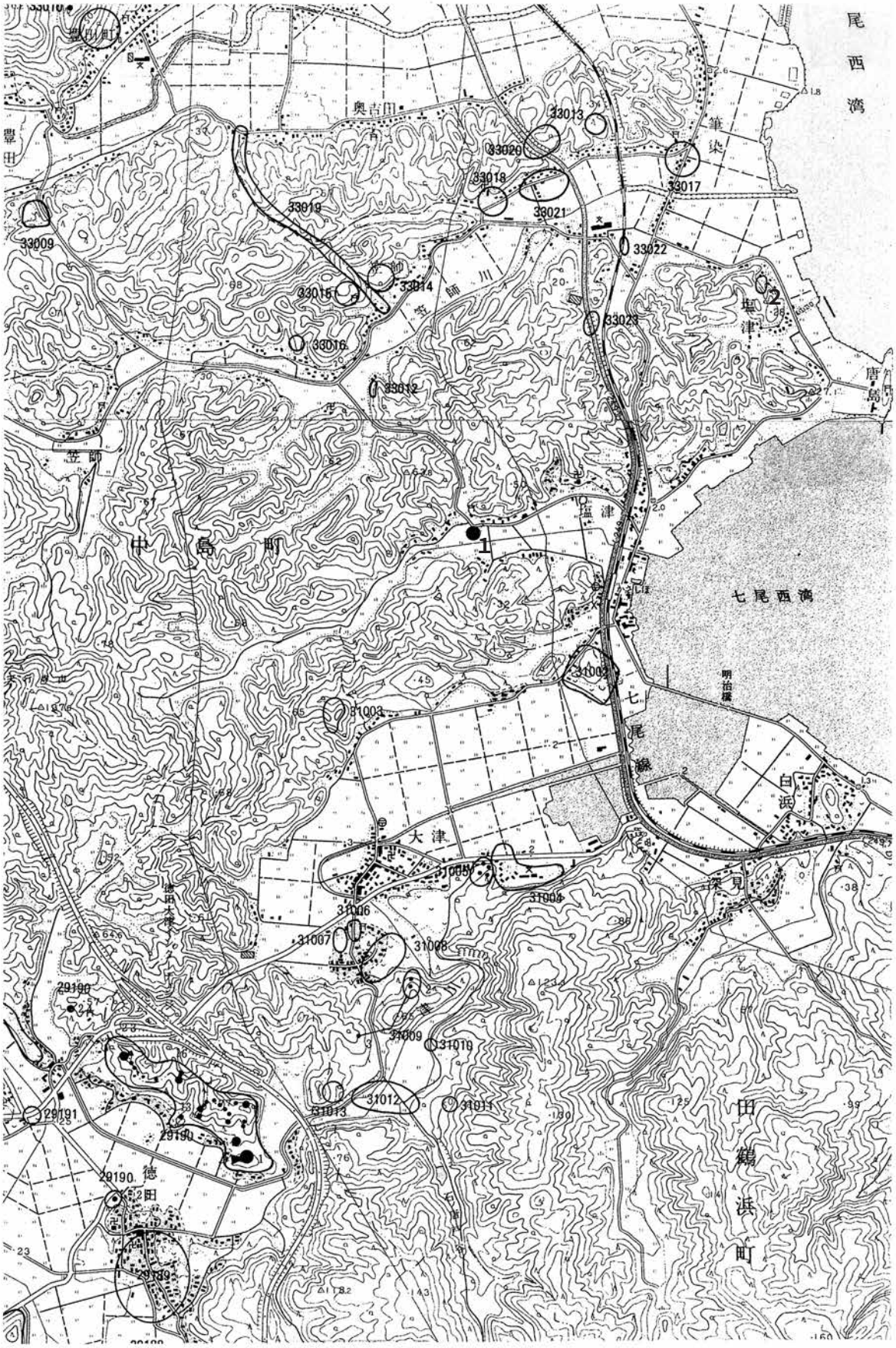
第２章　遺跡の位置と環境

塩津遺跡は石川県七尾市中島町塩津地内に所在する。天行寺山系を水源とする塩津川は開析谷や沖積地を形成しながら七尾西湾に注ぎ、その流域に広がる狭小な沖積地北縁に現塩津集落が営まれている。遺跡はその集落内、日面神社の南に立地し、周辺の小字名は上組と呼ばれている。遺跡の南側に広がる田面は、かつての入り江を埋め立てたものであるといわれ、往時の集落は旧汀線際に立地していたものと推定される。

第２図　遺跡の位置

周囲の遺跡を概観する。大津遺跡（31008）では縄文時代前期後葉の土坑墓・竪穴状遺構・石組遺構等が検出されている。出土した土器の主時期は前期中葉に位置づけられている。大津くろだの森遺跡（31012）では中期中葉の竪穴住居や後期中葉以降の環状柱列・４本柱建物等が検出されている。また中期後半～後期中葉に位置づけられている石器が約1,300点出土している。大津神社境内遺跡（31007）では鳥居のすぐそばから弥生の磨製石剣、小型有樋式石剣が出土している。徳田１号墳（29190－１）は全長約85.5mを測る前方後円墳である。県内では能美市秋常町の秋常山１号墳（全長約110m）に次ぐ規模であり、能登半島の最北端に分布する前方後円墳とされている。下笠師Ｅ遺跡（33017）では井戸状の土坑から荒型10点とその削り屑が出土している。時期は８世紀後半に位置づけられており、木製食器の生地生産に関連する遺跡としては全国でも最古級とされている。中笠師中世墓（33012）では14世紀後半～15世紀後半の墓地群が検出されており、五輪塔・板碑等が出土している。同時期の墓地は笠師川流域に多く分布することで知られている。塩津太子塚は北に位置する正永寺の太子信仰に由来があるとされ、県内の紀年銘資料から時期は16世紀前半に位置づけられている。現在でも「太子講」は毎年笠師保地区で執り行われているとのことである。

七尾西湾は製塩遺跡の分布密度が高いことで知られている。笠師カキノウラ遺跡（２）では大型の倒盃脚が10点出土している。これは能登式製塩土器の最古型式として知られている祖浜遺跡と同時期に位置づけられており、土器製塩の初現を考えるうえで興味深い資料である。第３図に示した以外でも多くの製塩遺跡が確認されている。中島フジノキ遺跡（33076）では大型の倒盃脚が８点出土している。隣接する中島フジノキ製塩遺跡（33075）では多量の棒状脚と倒盃脚１点が出土しており、時期は８～９世紀に位置づけられている。ヤトン谷内遺跡（33047）では大型の棒状脚や平底タイプとともに土師器甕や鉢形土器に似た「類製塩土器」が出土している。時期は７～10世紀に位置づけられている。出土した製塩土器・土師器・須恵器には胎土分析が行われており、すべて在地産との結果が得られている。



第３図　周辺の遺跡（Ｓ＝1/25,000）

第１表　遺跡地名表

番号	枝番	名　　称	現　状	立　地	時　代	出　土　品	備　　考
1		塩津遺跡	田	丘陵裾	古墳・古代	製塩土器、土師器、須恵器、白磁	2002年県埋文センター発掘調査
2		笠師カキノウラ製塩遺跡	山林	丘陵	不祥	製塩土器	
29189		得田氏館跡	宅地	平地	古墳	土師器、須恵器	2003～2004年県埋文センター発掘調査
29190		徳田１号墳	山林	丘陵	古墳		前方後円墳（全長85.5m）。茸石、２段築城
	2	徳田２号墳	山林	丘陵	古墳		円墳（径33m、高５m）
	3	徳田３号墳	山林	丘陵	古墳		円墳（径17m、高２m）
	4	徳田４号墳	山林	丘陵	古墳		円墳（14.5～10m、高1.3m）
	5	徳田５号墳	山林	丘陵	古墳		円墳（径26m、高1.7m）
	6	徳田６号墳	山林	丘陵	古墳		円墳（径11.5～10m、高1.5m）
	7	徳田７号墳	山林	丘陵	古墳		円墳（径16m、高２m）
	8	徳田８号墳	山林	丘陵	古墳		円墳（径15.5m、高２m）
	9	徳田９号墳	山林	丘陵	古墳		円墳（径20～18.5m、高2.5m。帆立貝型前方後円墳の可能性あり
	10	徳田10号墳	山林	丘陵	古墳		円墳（14m、高１m）
	11	徳田11号墳	山林	丘陵	古墳		方墳（辺12m、高2.5m）
	12	徳田12号墳	山林	丘陵	古墳		方墳（辺８×8.5m、高0.5m）
	13	徳田13号墳	山林	丘陵	古墳		前方後円墳（全長31.8m）
	14	徳田14号墳	山林	丘陵	古墳		方墳（辺12×９m、高1.7m）
	15	徳田15号墳	山林	丘陵	古墳		円墳（径19.5m、高1.3m）
	16	徳田16号墳	山林	丘陵	古墳		前方後円墳か（全長55m）
	17	徳田17号墳	山林	丘陵	古墳	弥生土器	円墳（径20m、高2.0m）
	18	徳田18号墳	山林	丘陵	古墳		円墳（径17～12.5m、高1.3m）
	19	徳田19号墳	山林	丘陵	古墳		方墳（辺10×18m、高1.5m）
	20	徳田20号墳	山林	丘陵	古墳		方墳（辺10m、高２m）
	21	徳田21号墳	山林	丘陵	古墳		円墳（径12m、高１m）
	22	徳田22号墳	山林	丘陵	古墳		円墳（径12m、高1.7m）
	23	徳田23号墳	山林	丘陵	古墳		前方後円墳か（全長30m）一部土取りにより消失
	24	徳田24号墳	山林	丘陵	古墳		円墳（径30m、高５m）
	25	徳田25号墳	山林	丘陵	古墳		円墳
29191		徳田宮前遺跡	田	平地	奈良・平安		
31002		蛸島遺跡	山林	丘陵端	古墳	土師器	
31003		黒詰遺跡	山林	丘陵	不詳		
31004		大津小学校遺跡	校地	平地	古墳～奈良	製塩土器	敷地拡張の際出土
31005	1	大津東１号墳	山林	丘陵	古墳		円墳（径８m）、石材散乱、横穴式石室
	2	大津東２号墳	山林	丘陵	古墳		円墳（径９m）石材散乱、横穴式石室
	3	大津東３号墳	山林	丘陵	古墳		円墳（９m）
	4	大津東４号墳	山林	丘陵	古墳		円墳（径11m）、石材散乱、横穴式石室
31006		大津神社前遺跡	畑・田	平地	不詳	土師器、須恵器	
31007		大津神社境内遺跡	社地	丘陵麓	弥生・古墳	小型有樋式石剣、紡錘車、土師器、須恵器	青銅利器模作遺物の出土地として性格の研究がまたれる。
31008		大津遺跡	社地・宅地・畑	平地	縄文～中世	縄文土器、石鏃、石槍、磨製石斧、石錐、凹石、石匙、打製石斧、弥生土器、土師器、須恵器、陶質土器、土師質土器	1991年県埋文センター発掘調査
31009	1	大津１号古墳	畑	丘陵麓	古墳	須恵器１、土師器、刀３以上、鉄鏃３以上、金環胴環４、不明鉄製品	円墳（径10m）、横穴式石室（長６m、両袖形）
	2	大津２号古墳	山林	丘陵麓	古墳		円墳、横穴式石室が露出
	3	大津３号古墳	山林	丘陵麓	古墳		円墳、横穴式石室（全長３m）
31010		大津堂ヶ谷内遺跡	林道・山林	丘陵麓	縄文	磨製石斧	1972年林道工事中に出土
31011		大津赤兀遺跡	山林	丘陵	縄文、中世	縄文土器、土師皿	1994年県埋文センター発掘調査
31012		大津くろだの森遺跡	田・畑	平地	縄文	石鏃、縄文土器	1994～1996年県埋文センター発掘調査
31013		大津ロクベエ遺跡	山林	丘陵	古墳～近世	須恵器、土師器	1992～1993年県埋文センター発掘調査
33009		豊田ホリバタケ遺跡	畑・山林	丘陵	縄文・奈良・平安	縄文土器（中期）、須恵器	
33012		中笠師中世墓	田	平地	中世	五輪塔、珠洲焼	1991年県埋文センター発掘調査
33013		笠師Ａ遺跡	山林	丘陵上	中世		
33014		笠師Ｂ遺跡	平地	丘陵斜面	平安～中世	土師器、須恵器、珠洲焼	
33015		笠師Ｃ遺跡	山林	丘陵斜面	奈良～平安	須恵器	
33016		笠師Ｄ遺跡	山林	丘陵斜面	中世	珠洲焼片	
33017		笠師Ｅ遺跡	田・宅地	平地	中世	土師質土器、珠洲焼、越前焼	1992年県埋文センター発掘調査
33018		笠師Ｆ遺跡	田	平地	古墳・奈良・中世	土師器、須恵器、製塩土器、珠洲焼	1992年県埋文センター発掘調査
33019		殿様道跡	山林	丘陵上	近世		
33020		二輪家跡	山林	丘陵上	近世		
33021		下笠師スノブ遺跡	田	平地	奈良～中世	土師器、須恵器、珠洲焼、五輪塔（大覚寺墓地に移転）、製塩土器、木製品、漆器	1992年県埋文センター発掘調査
33022		笠師南側製塩遺跡	田	平地	古墳	製塩土器	
33023		笠師南側トジャイ製塩遺跡	田	平地	古墳	製塩土器	

第３章　調査の成果

第１節　概　　要

調査区は県道豊田笠師保停車場線が笠師保へ向かう手前、丘陵の裾を切り一部盛土して作られている現県道の南側に位置する。調査区を出土遺物の多い西半と少ない東半に大きく分け、西半西側を１区、東側を２区とし、東半を３区とした。

標高は現況田面が2.6～2.7m、遺構検出面が1.6～1.8mで西から東へ傾斜する。

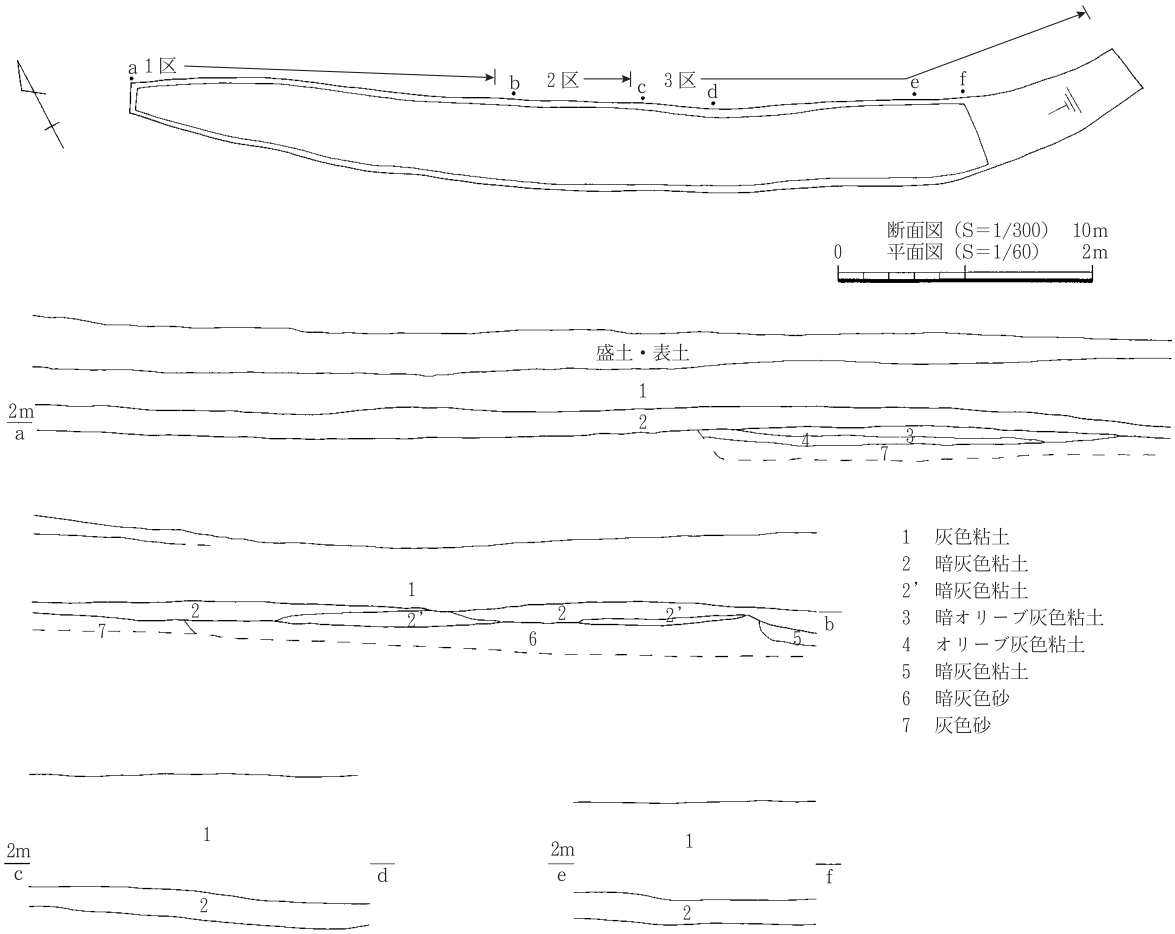
土層は大きく４層に分かれる。表土・盛土の下に地山岩屑をブロック状に含む灰色粘土（土色番号１。以下同様）が堆積していた。その下層には遺物包含層である暗灰色粘土（２）が20㎝の厚さで堆積していた。腐植質で炭化物や土器を含み、土器の時期は幅広く、特に製塩土器の出土が目立った。部分的に腐植質の強い箇所（２′）があり、土質的にはより下の層に近い。その下層には腐植質が強い粘土層（３～５）が堆積していた。５層は若干溝状に落ち込む断面形を呈するが下層確認の結果、明確な肩を確認できなかった。これらの粘土層は部分的に途切れており、層の厚さも比較的薄い。遺構の検出作業はこの層で行っている。その下層には暗灰～灰色の砂層（６～７）が堆積していた。この層はピート層で、腐植質が極めて強く木片も多量に含まれていた。粘性が強くしまりが悪いうえに湧水し、雨の降った翌日には泥沼と化すような状況であった。

検出の結果、遺構は確認できなかったので、２区と３区の境界周辺で下層確認を行った。検出した面から１m、現況田面から２mの深掘りの結果、ピート層は途切れず遺物も確認できなかったので、そこで掘り下げを終了した。

第２節　遺　　物

１は深鉢である。外面に斜方向の条痕文が荒めに施され、内面下半にはかすかに指押さえの痕跡が認められる。２は壷である。内外面ともに斜方向のハケが施される。外面はハケ調整の上から櫛状工具で６本一組の直線文が３段施され、下半には煤の付着が認められる。３は甕である。外面はケズリの後にハケが施される。５本・10本各一組ずつ、２種類の櫛状工具が使用されているようで、横・斜方向に施される。底部外面に圧痕が認められた。内面はハケメの後にナデが施されており、焦げが顕著である。４は甕である。磨耗が著しいため調整は不明である。口縁はくの字状に緩く外反し、端部はナデによって若干上下に広がる。５は高杯である。磨耗が著しいため調整は不明である。口縁半ばで段を形成し、その屈曲点から端部にかけて外反する。端部はやや水平に面取りされ、若干外側にのびる。６は器台である。磨耗が著しいため調整は不明である。７は甕である。底部外面は一部被熱している。８は製塩土器の倒盃脚と考える。外面に一部斜方向のハケが残り、底部外面の凹部には被熱の痕跡が認められる。９も同様の被熱痕が認められた。10は瓶である。調整は内外面ともロクロナデだが、耳部周辺の外面に３本一組の平行タタキが、内面にはそれに対応する当具痕が認められた。耳部は欠損しているが１箇所穿孔が施されており、その孔径は４㎜を測る。11・12は有台杯である。11は底部内面中央が若干へこみ、体部の張りはやや強い。11・12の胎土は、角ばった長石・石英の粒の大きさが目立ち、鳥屋窯跡群産の可能性がある。

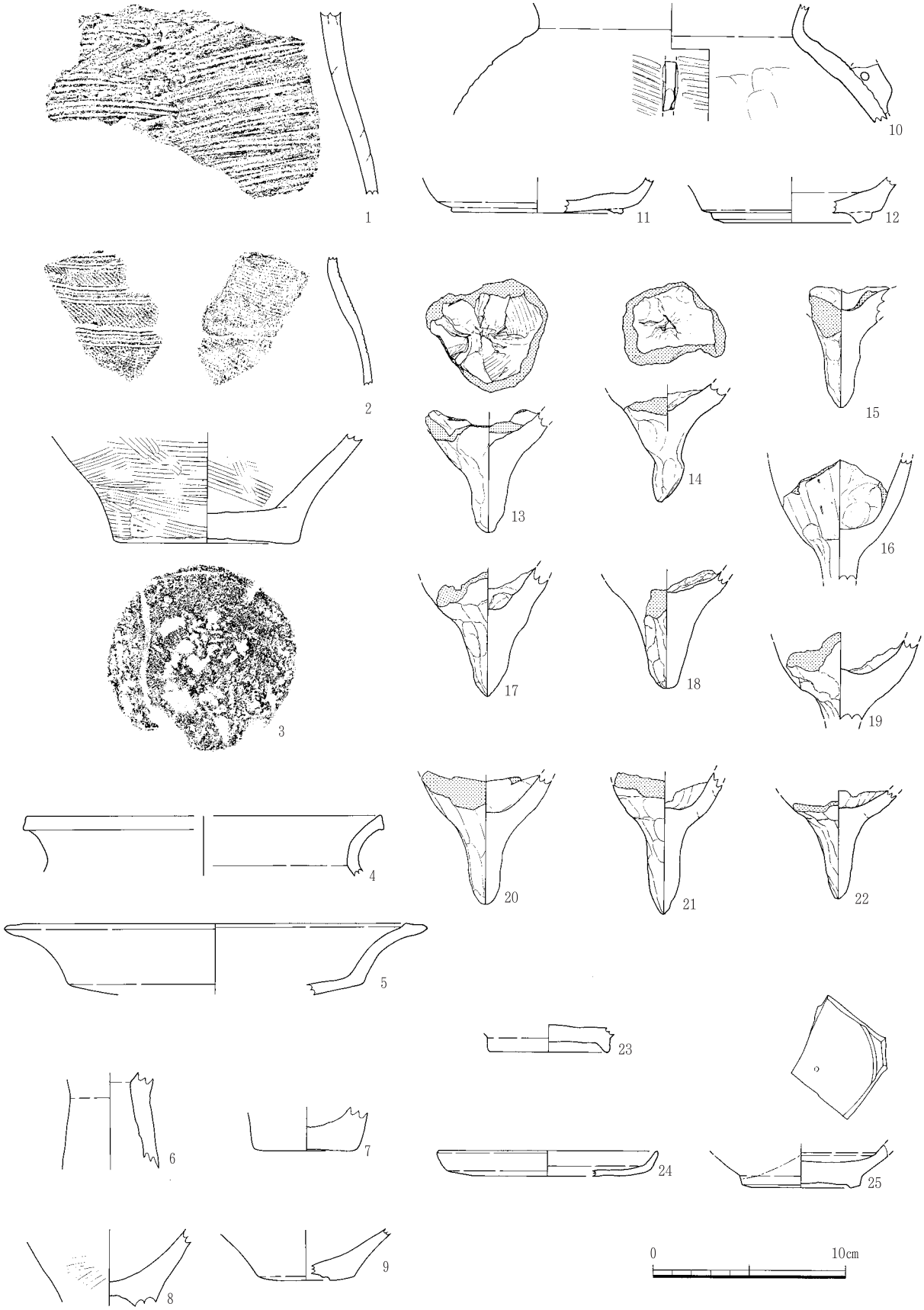
13～22は製塩土器の棒状尖底である。円盤成形技法（四柳1995）の使用が想定され、外面はナデ、



第４図　調査区実測図

内面はハケ後にナデを施す調整が多い。棒状脚からくびれ部の形状や底部内面の断面形から若干の時期差が認められた。13～15は棒状脚からくびれ部の立ち上がりが急であり、底部内面の断面形が「Y」字状を呈する。13・14の内面には成形時にできたと思われる縦皺が放射状にみられ、その後ハケが施される。13のハケ方向は横であり、縦皺が消えず明瞭に残っていた。16～22も棒状脚からくびれ部の立ち上がりは急であるが13～15に比べると緩く、くびれ部に丸みを帯びるものが多く見受けられた。底部内面の断面形は「Y」というよりもむしろ「T」字状に近い。放射状の縦皺はナデによって消されることが多く、ハケ調整を明瞭に残すものは少なかった。19は底部内面中央が膨らんでおり、周囲から土をかき寄せたものと考える。棒状尖底は未図化資料を合わせると56点出土した。

23は椀の底部で、内黒である。24は皿である。砂粒の混入が少なく、キメの細かい胎土を使用している。25は碗である。釉は高台脇まで施されている。底部の厚さは体部と比して約２倍あり、内面には幅１㎜で圏線が巡り、その径は7.8㎝を測る。他にも被熱した凝灰岩や砂岩（26～28）が出土しており、炉材として使われていた可能性がある。



第５図　遺物実測図

第２表　土器観察表

報番	実測番号	出土地点	器　種	種　類	法量（cm）			色調（素地）		胎　　土	焼成	調　　整		備　考
					口径	底径	器高	内面	外面			内面	外　面	
1	D20	２区～３区遺構検出	深鉢	縄文土器	―	―	―	浅黄	浅黄	１ミリ大の粗砂粒多量に含む	良	ナデ、指押さえ	条痕文	海綿骨針少量含む
2	D３	２区包含層	壷	弥生土器	―	―	(6.6)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	１ミリ以下の粗砂粒含む	良	刷毛目、指押さえ	刷毛目、直線文	海綿骨針含む
3	D１	１区～２区壁立て	甕	土師器	―	9.6	(5.8)	灰黄	灰黄	１ミリ以下の粗砂粒多量１ミリ大の粗砂粒少量含む	良	刷毛目のちナデ	刷毛目	底部圧痕有り。海綿骨針含む
4	D24	１区東包含層	甕	土師器	(18.5)	―	3.1	にぶい黄橙	にぶい黄橙	１ミリ前後の粗砂粒含む	良	磨耗不明	磨耗不明	
5	D８	１区東包含層	高杯	土師器	22.1	―	3.7	にぶい黄橙灰黄褐	にぶい黄橙灰黄褐	白っぽい３ミリ程度の礫中程度細砂多く含む	良	磨耗不明	磨耗不明	残存率口縁2/12。海綿骨針含む
6	D23	１区包含層	器台	土師器	―	―	(5.0)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細砂、粗砂多	良	ナデ	磨耗不明	海綿骨針・赤色粒含む
7	D15	１区包含層	甕	土師器	―	5.3	(2.3)	にぶい黄橙	灰黄褐	粗砂多	良	磨耗不明	ナデ	海綿骨針含む
8	D22	１区包含層	製塩(倒盃脚)	土師器	―	5.1	(2.6)	浅黄橙	浅黄橙	１ミリ以下砂礫多、１～２ミリ粗砂わずかに含む	良	ナデ磨耗不明	磨耗不明	海綿骨針含む
9	D10	１区西包含層	高杯	土師器	―	―	(4.0)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	１～２ミリ粗砂多、３～４ミリ礫少	良	ナデ	刷毛目	海綿骨針少量含む
10	D５	１区～２区表土除去	瓶	須恵器	―	―	(6.1)	灰	灰、灰白	細砂多	良	ロクロナデ、当具痕	ロクロナデ、並行タタキ	海綿骨針少量含む
11	D９	１区東包含層	有台杯	須恵器	(12.0)	9.0	1.8	青灰	青灰	白っぽい粗砂、細砂多く含む	良	回転ナデ	回転ヘラ切り、回転ナデ	残存率底部3/12
12	D17	２区包含層	有台杯	須恵器	―	8.6	2.4	灰	灰	４ミリ以下の白い半透明の砂礫多く含む、赤色粒を含む	良	ロクロナデ	ロクロナデ、高台部分貼り付け後押さえナデ	
13	D12	１区西包含層	製塩(尖底)	土師器	―	―	―	にぶい黄橙	にぶい黄橙	１ミリ以下砂粒多、１ミリの粗砂少含む	良	刷毛目、ナデ、しぼり目	指ナデ	海綿骨針含む
14	D16	１区包含層	製塩(尖底)	土師器	―	―	6.1	にぶい褐	にぶい褐	粗砂多	良	ナデ、指押さえ	ナデ、指押さえ	海綿骨針含む
15	D25	１区包含層	製塩(尖底)	土師器	―	―	―	灰黄褐	にぶい褐	１ミリ前後の粗砂粒	良	しぼり痕、指押さえ	ナデ、指押さえ、ひねり痕	海綿骨針含む
16	D11	１区西包含層	製塩(尖底)	土師器	―	―	―	浅黄橙	浅黄橙	１ミリ以下砂粒多、１～２ミリ粗砂少３ミリの礫少	良	指押さえ	ケズリ指ナデ	
17	D18	１区包含層	製塩(尖底)	土師器	―	―	(4.5)	にぶい橙	にぶい橙	粗砂多	良	ナデ、指押さえ	ナデ、指押さえ	海綿骨針含む
18	D13	１区包含層	製塩(尖底)	土師器	―	―	6.7	にぶい褐	にぶい褐	粗砂多	良	ナデ、指押さえ	ナデ、指押さえ	海綿骨針含む
19	D19	１区西包含層	製塩(尖底)	土師器	―	―	(6.3)	にぶい橙	橙	１ミリ以下砂礫少、１ミリ程の粗砂わずか	良	指押さえ	指ナデ	海綿骨針含む
20	D14	１区西包含層	製塩(尖底)	土師器	―	―	(6.9)	灰	にぶい黄橙	１ミリ以下砂礫多	良	指ナデ	指ナデ	海綿骨針多く含む
21	D６	１区	製塩(尖底)	土師器	―	―	(7.4)	灰白	にぶい橙	粗砂多	良	指ナデ	指ナデ	海綿骨針多く含む。シャーモット含む
22	D７	１区遺構検出	製塩(尖底)	土師器	―	―	(5.6)	灰黄	灰黄	粗砂多	良	指押さえ	指ナデ	海綿骨針少量含む
23	D４	２区包含層	椀	土師器	―	6.2	1.4	灰～暗灰	にぶい黄褐	細砂、１ミリ大の白く半透明の粗砂やや多	並	ナデ	ロクロナデ、高台部分貼り付け後押さえナデ	内黒
24	D21	２区包含層	皿	土師器	(11.4)	(10.4)	1.3	黄灰褐	褐灰灰白	粗砂中量	良	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	海綿骨針多く含む
25	D21	２区包含層	椀	白磁	―	6.2	2.3	灰白	灰白	緻密細砂、2.5ミリ大の白い礫をわずかに含む	良	回転ナデ	回転ケズリ	

第４章　まとめ

今回の調査で出土した遺物は、北側の丘陵裾からの流れ込みである可能性が高く、遺跡本体は北側の丘陵裾沿い、現塩津集落が営まれている箇所に重なる形で立地していたものと推定される。近年のほ場整備工事の際にも軟弱な地盤に悩まされていることから、調査区南側周辺は居住地としては不向きだったと考えられる。

出土した遺物の時期は縄文から中世と幅広い。大半は製塩土器であるが、製塩の炉材と思われる遺物も少片であるが確認している。製塩を中心に、往時の塩津集落の人々の生活を窺い知る資料を得たことが今回の調査の成果といえる。

報告書抄録

ふりがな	ななおし　しおついせき
書　　名	七尾市　塩津遺跡
副　書　名	一般県道豊田笠師保停車場線改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	谷内明央
編集機関	財団法人石川県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒920-1336　石川県金沢市中戸町18－１　Tel 076-229-4477
発行機関	石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター
発行年月日	2005年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
塩津遺跡（しおついせき）	石川県七尾市中島町塩津地内（いしかわけんななおし なかじままちしおつち ない）	172022		37度４分45秒	136度51分14秒	20020701～20020715	250㎡	一般県道豊田笠師保停車場線改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺物	特記事項
塩津遺跡	生産、集落	古墳・古代	製塩土器、土師器須恵器、白磁	

要　　約	塩津遺跡の南端を確認した。遺物は縄文～中世と幅広く、製塩土器の出土が目立つ。

調査着手前（西から）

表土除去作業

図版２

作業風景（西から）

完掘状況（西から）

完掘状況（東から）

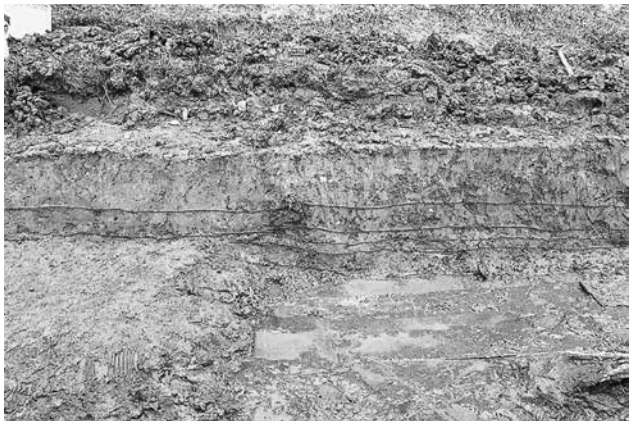
埋め戻し作業

図版４

１区完掘状況（北から）

２～３区完掘状況（北西から）

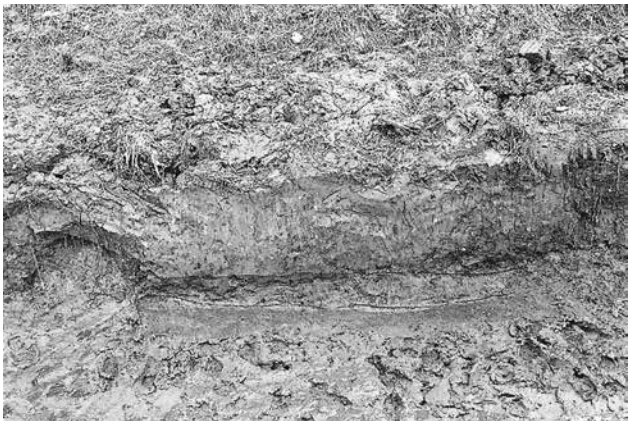
調査区土層①



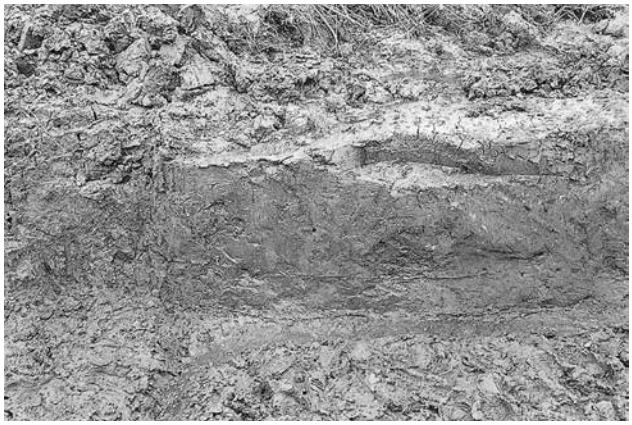
調査区土層②

調査区土層③

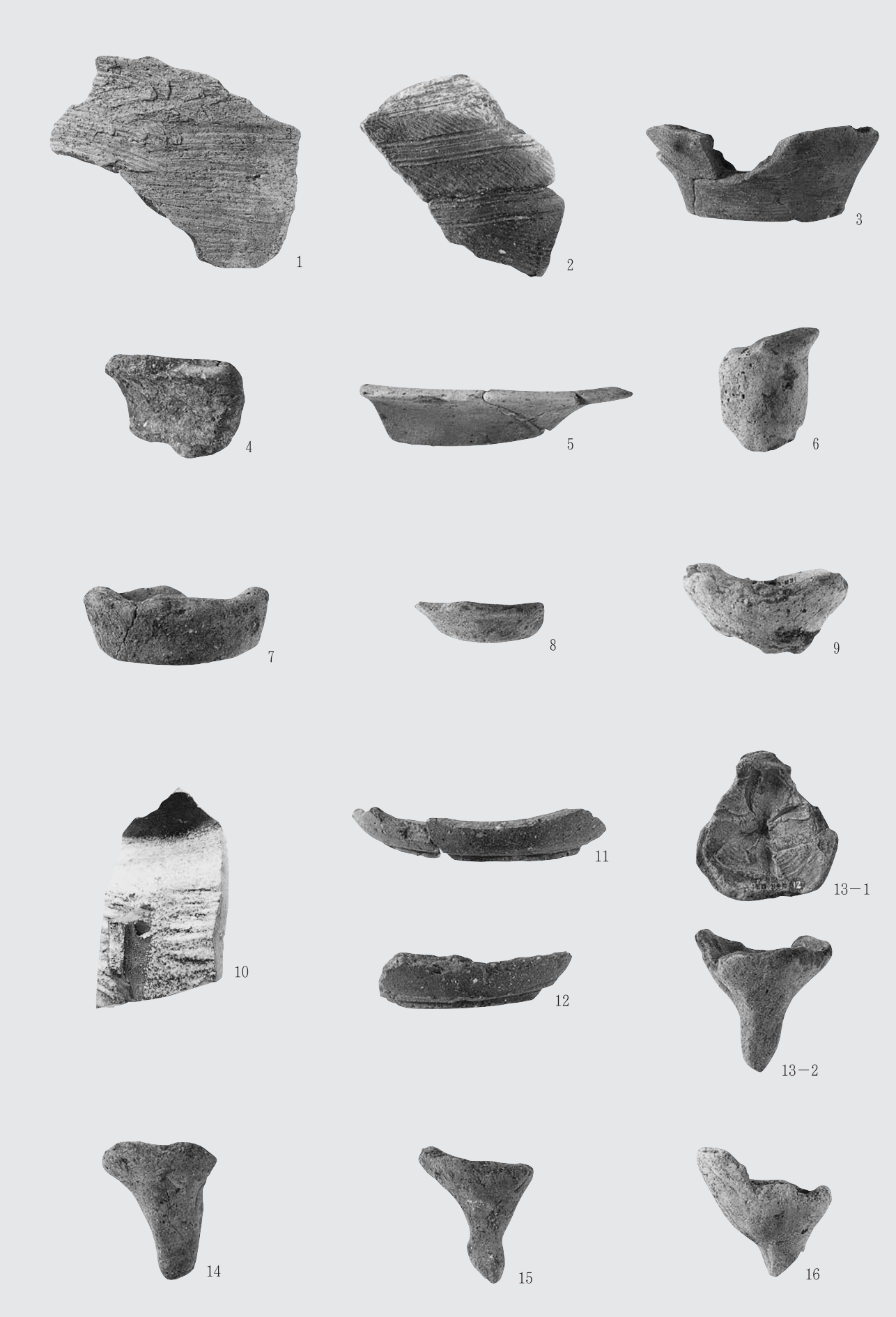
調査区土層④



調査区土層⑤

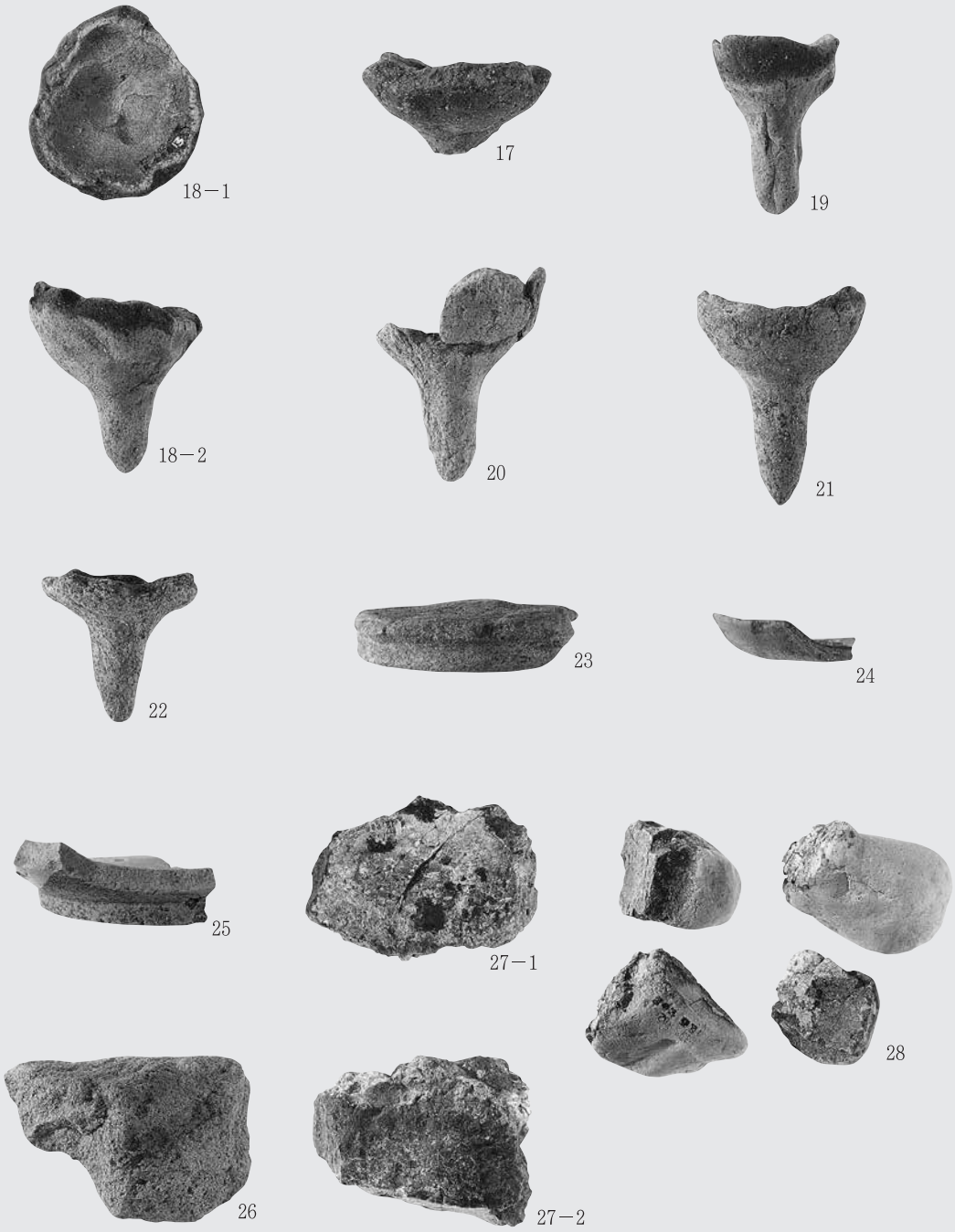


調査区土層⑥



出土遺物①

図版６



出土遺物②

七尾市　塩津遺跡

発行日　平成17年（2005）３月31日
発行者　石川県教育委員会
〒920-8575　石川県金沢市鞍月１丁目１番地
電話　076－225－1842（文化財課）
財団法人　石川県埋蔵文化財センター
〒920-1336　石川県金沢市中戸町18番地１
電話　076－229－4477
E-mail address　mail@ishikawa-maibun.or.jp
印　刷　有限会社　栄光ラボラトリ